



わたしの ルーマニア

ルーマニア×武蔵野×ヒト

「力をあわせ困難を 乗り越える五輪へ」

ルーマニア・オリンピック・スポーツ委員会
会長 ミハイ・コヴァリウ氏

ルーマニア・オリンピック委員会会長のミハイ・コヴァリウ氏は、フェンシング・サーブル競技の金メダリストで、ルーマニアで最も尊敬されるスポーツ選手の一人でもあります。武蔵野市の友好都市であるブラショフ市のご出身という縁もあり、インタビューが実現しました。2017年に武蔵野市を訪れた際には、市役所への表敬訪問や市の体育館や競技場などの視察を行った後、他選手たちとともに大野田小学校にて飛び入りで体育の授業を行い、メダルを子どもたちに見せてくださったこともありました。

スポーツを通じて不屈の精神を学び、この五輪がコロナ禍で先の見えない時代を生きる人類にとり、希望の光となることを願っておられます。

ミハイ会長が思うルーマニアの魅力とは？

— ルーマニアには、美しいもの、本物、時を超えて受け継がれる伝統的な文化や風習がたくさんあります。カルパチア山脈から黒海まで、ドナウ川からマラムレシュの天門まで、豊かな自然や文化遺産など様々な魅力が詰まった国です。またルーマニア人は、ブランクーシの「無限の柱」の如き正直さ、エネスクの「ルーマニア狂詩曲」の如き真正さ、世界的に有名なコマネチ選手の如き勇気を持っています。魂の滋養となるような一生忘れられない体験ができるルーマニアに、ぜひ一度お越しください。

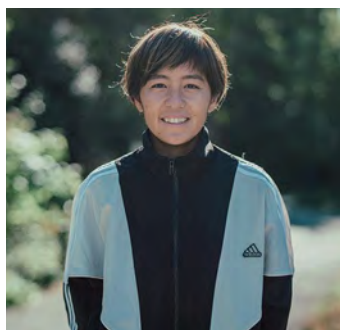
ルーマニアと武蔵野市のこれからに望むことは？

— 武蔵野市には、我々を応援してくださる友人の皆さんがいます。サポーターの皆さんからの励ましの言葉や活動によって、お互いの絆がさらに強まるのを感じています。私たちは遠く離れ、コロナ禍においては会うこともかきませんでしたが、友人への想いは距離を超えて届くものです。ルーマニア人も日本人も、オリンピックという夢のために共に奮闘しています。そして夏には、喜びを分かち合ったり涙を拭いたりしながら、全力を尽くして戦いましょう。皆さんと握手を交わし、生涯の友情が続いていくことを願っています。

ミハイ会長へ インタビュー

告知

女子サッカーなでしこジャパン 岩渕真奈選手のフォトモザイク笑顔画を公開します



岩渕真奈選手

東京2020大会に向けて、武蔵野市出身の岩渕真奈選手の応援プロジェクトを行っています。岩渕選手からはコロナ禍で頑張る市民や医療従事者の皆様に向けた応援メッセージ動画をいただきました。そのメッセージへの返答として、市民等の皆様からスマイルフォトを募集し（1月で募集終了）、岩渕選手のフォトモザイク笑顔画を作成する企画を実施しています。スマイルフォトを組み合わせて作成したフォトモザイク笑顔画は4月上旬に公開予定です。（市役所での展示、市HP等で公開）みんなの笑顔の力でコロナ禍を乗り越え、夏のオリパラも盛り上げましょう！

オリンピック開催時には、岩渕選手が出場する試合のパブリックビューイングを予定しています。武蔵野市出身の岩渕選手への熱い応援をよろしくお願いいたします。



岩渕選手の
メッセージ動画は
こちら

JOIN&SUPPORT

ホストタウン事業に参加・協力しよう！

ルーマニアホストタウンムサシノ

サポーター登録

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、ホストタウンとしてルーマニアを応援し、一緒に地域を盛り上げる仲間を募集しています。文化やスポーツを通じた感動や交流と一緒に体験しませんか？サポーターに登録すると、各種イベント情報が登録したメールアドレスに届きます。



サポーター登録は
こちらから

夢に挑む 戦う パラ選手たちへエールを

ルーマニア パラアスリート募金

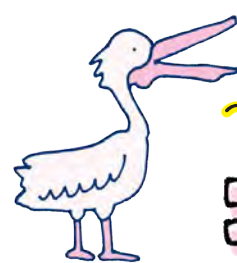
各国のパラリンピック組織委員会はオリンピックと比べ資金が十分とは言えない状況です。ルーマニアも例外ではなく、海外での十分な練習をするためには引き続きみなさんの支援が必要です。



募金は
こちらから

サポーター登録、募金方法については、
武蔵野市多文化共生・交流課までお問い合わせください。

武蔵野市多文化共生・交流課内 ルーマニアホストタウン推進実行委員会事務局
TEL：0422-60-1806 Mail: SEC-KORYU@city.musashino.lg.jp



モモイロペリカンは
ルーマニアの国鳥です

～ルーマニア ホストタウン ムサシノ～

モモイロペリカン通信

vol.5

サッカールーマニア代表が オリンピックに戻ってくる！

Spring

2021/ 春号



ルーマニア・マニアへの道 その5

東京2020大会サッカー競技においてヨーロッパから出場する国を知っていますか？スペイン、ドイツ、フランスに加え、ルーマニアが出場します！！

オリンピック予選を兼ねて行われたサッカー U-21 欧州選手権2019にて、ルーマニアはグループリーグでサッカー強豪国であるクロアチア、イングランド、フランスと同組ながらも1位で通過、決勝トーナメント進出と同時に14大会ぶりのオリンピック出場を決めました。決勝トーナメント準決勝ではドイツを相手に2-4で敗れたものの、90分まで2-2と互角の戦いを繰り広げ、サプライズチームとして最後まで大会を盛り上げました。この勢いそのままに、オリンピックでもルーマニア旋風を巻き起こすことが期待されます。力を合わせて応援し、ルーマニアサッカー代表を後押ししましょう！

ルーマニア代表の最大の特徴は堅守速攻、GKヨヌーツ・ラドゥ（インテル）を中心とした堅い守備でボールを奪うとシンプルにパスを前線へ繋ぎ、司令塔のヤニス・ハジ（レンジャーズFC）やストライカーのゲオルゲ・ブシュカシュ（レディングFC）らがゴールを襲います。また、ウィングのフロリネル・コマン（FCSB）やデニス・マン（パルマ）らが繰り出すドリブルでのサイド攻撃もルーマニアの大きな武器となっています。

注目選手

ヤニス・ハジ



©FRF

「東欧のマラドーナ」ゲオルゲ・ハジの息子で、U-24 ルーマニア代表の司令塔。変幻自在のパスで、相手ディフェンスを翻弄する。利き足は右足だが、左足も得意としており、1試合のうちに左右の足でPKを沈めたことも。

オリンピック男子サッカーの補足情報……

開催国の日本を加えた16か国が参加し、ヨーロッパではU-21 欧州選手権の上位4チームに五輪出場権が与えられます。従来の規定は23歳以下ですが、1年の延期により今大会では24歳以下の選手が出場権を得ます。



©FRF

「知ってみルーマニア！」

ルーマニアホストタウンムサシノ情報発信ウェブサイト開設



ルーマニアをより深く知り、離れていても交流やつながりを持ち続けることを目的として、ホストタウンの特設サイトを開設しました！文化や歴史、名所など様々なルーマニアの魅力、そして武蔵野市のホストタウン事業についてまるごと知っていただける、魅力的なコンテンツが満載です。ルーマニアの情報、サポーターの活動、ホストタウンキャラクターのストーリーなどコンテンツは多岐にわたりますが、中でも注目は「動画配信」。ルーマニアのパラ選手たち、パラリンピック委員会会長、そしてルーマニア大使などから武蔵野市民へのメッセージ動画を配信しています。また過去に武蔵野市を訪れた日本武蔵野センターの学生たちによる「ルーマニア語講座」の動画も。「TOKYO2020」への道ではルーマニアのパラアスリートたちのプロフィールや意気込みなどを紹介しています。気になる選手を見つけて、ぜひ応援してください！



ホストタウン特設サイト



成蹊大学ルーマニア交流プロジェクト活動報告

パンフルート

成蹊大学パンフルートグループは、ルーマニア交流事業の一環として、2020年2月に発足しました。関連イベントに参加した学生スタッフの提案により始まったもので、「ルーマニアの民族楽器に親しみをもつ」「音楽面からルーマニアについて知る」「ルーマニア関連のイベントで演奏する」ことを目的に活動しています。具体的には、日本ルーマニアパンフルート協会会長の櫻岡史子さんによるレッスンを受け、11月には発表会で演奏披露、12月にはオンラインによる日本パンフルートフェスティバルに参加しました。オンラインだからこそ、海外プロ奏者のレッスンを受けるという貴重な経験ができました。一方で、合奏ができないというデメリットもあったため、2台のPCを使い対面とオンラインによるハイブリッドレッスンを行うなど、コロナ禍でも工夫をして取り組んでいます。今後も、活動紹介動画を作成・発信するなど、今できることに取り組んでいきたいと考えています。



3年生
加藤由布子

EVENT REPORT

ルーマニアの焼き物とイースターエッグ展

2021年3月4日から10日まで東急百貨店吉祥寺店レストラン街特設会場にて実施
(展示協力：JICAルーマニアOB会 竹前雅子氏)

イースターエッグ

ルーマニアではクリスマス同様、復活祭（イースター）も重要な行事として盛大に祝われます。イースターエッグの模様にはすべて意味があり、多産で繁栄を表すうさぎや牧畜として共に暮らす羊、春に芽吹く草花など、生命を象徴する身近な自然をモチーフにしたものが多くあります。作家の作品を含む、手法や模様が異なるイースターエッグ約100点が展示されました。

陶器

ルーマニアの焼き物の産地は広く全国に分布し、種類や特徴も様々。食器として使われるほか、窓やドアの上に飾ることで災いから家や人を守るといわれます。花鳥文や幾何学模様がつけられた焼き物には素朴で繊細な魅力があります。コルンド焼、ホレズ焼、黒陶器など約50点が展示され、来場された方々は、ルーマニア各地の村々から収集された貴重なイースターエッグと焼き物に熱心に見入っていました。



世界のおもてなし料理プロジェクト

各ホストタウンが、地元の食材を使いつつ相手国の文化を踏まえた「食によるおもてなし」のあり方を探求するこのプロジェクト（内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局主催）。ルーマニア出身の山田エリーザさんをリーダーに、武蔵野ブラショフ市民の会の皆さんと「ルーマニアホストタウンムサシノ」チームとして参加しました。座学、専門家による実技の研修を経て、試行錯誤しながらおもてなしメニューを開発。2月21日に開催されたホストタウンサミットでは、中継で料理のオンライン発表を行いました。今後は、地元食材を大切に使った武蔵野市とルーマニアのコラボメニューをたくさんの方々に食べていただき、レガシーとして残していきたいと考えています。



▲ 榎本さんが育てた東京GAP認証の小松菜の「ルーマニア国旗カナッペ」



▲ お互いの郷土料理を融合させた「チョルバde武蔵野地粉うどん」

レシピはこちら ▶



ルーマニア・オンライントリップ

私は、昨年の夏から冬にかけて行われたルーマニアへのオンライントリップに参加しました。これは、現地に住んでいる方がスマートフォンで家や町の様子を映しながら、リアルタイムで案内してくれるというものです。コロナ禍で現地には行けませんが、オンラインだからこそ時間や場所に関係なく気軽に参加することができました。このイベントに参加して、特に2つのことが印象に残りました。1つ目はぶどうの楽しみ方です。ルーマニアではぶどうをピクルスにしてお肉と一緒に食べたり、ムストと呼ばれるジュースにして飲んだりしていることがわかりました。ムストはぶどうが発酵する前の状態で、ワインとも異なるそうです。秋にしか飲めないそうなのでぜひ現地で試してみたいです。2つ目は花に関してです。ルーマニアではお花を贈り合う習慣があるそうで、とても素敵だと思いました。また、公園では定期的にお花が植え替えられていて、季節によって異なる雰囲気味わえそうです。このオンライントリップ全体を通して、ルーマニアの食文化や町並みに加え、回を重ねるごとに移り変わる季節の様子も見ることができ、とても面白かったです。ルーマニアについてより深く興味を持つきっかけとなる貴重な体験でした。



3年生
横山悠香

